

大手町発 金融革命。

今、欧米を中心に急速に拡大している“フィンテック”関連ビジネス。フィンテックとは、ファイナンス (Finance) とテクノロジー (Technology) を掛け合わせた造語で、ITを活用し、金融・決済・財務などに革新をもたらす活動のこと。今年2月には、国際金融センター・大手町に、フィンテック企業のコワーキングスペース「FINO LAB」がオープン。日本におけるフィンテック関連ビジネスの発展を支える拠点として機能することを目的としている。今号では、「FINO LAB」および活動を支援する「FINOVATORS」、拠点を置くフィンテックスタートアップ企業に取材した。

フィンテックセンター オブ 東京 **フィノラボ**

(通称: フィノラボ)

FINO LABは、(株)電通、(株)電通国際情報サービスと三菱地所(株)の協業により、国際金融センター大手町の東京銀行協会ビルに開設された、フィンテック企業に特化したシェアオフィス。フィンテックスタートアップの成長を下支えするファシリティを備えるとともに、フィンテック業界を代表する有識者団体によって設立された「FINOVATORS」が、豊富なネットワークとノウハウで支援。フィンテックの聖地、FINO LABに集積する企業間のコラボレーション、相乗効果を加速させるエコシステムの創出を目指す。

<http://finolab.jp>

FINOLAB
THE FINTECH CENTER of TOKYO

施設概要

住所 ● 東京都千代田区丸の内1-3-1 東京銀行協会ビル14階
面積 ● 276.46坪



- 1 コワーキングオフィス: 75席
- 2 共用会議室: 12室 (個室利用としての貸出にも対応)
- 3 イベントスペース (80名収容可)
- 4 来訪者会議室: 3室
- 5 リフレッシュスペース
- 6 メンター席: 10席 (FINOVATORS)

※建て替え(丸の内1-3計画)のため、東京銀行協会ビルでの活動は2016年11月末まで。



1

2

3

5

1

2

4

6

1 コワーキングオフィスには固定席とフリー席を用意(写真は固定席)

1 ブラックを基調としたスタイリッシュな内装(写真はフリー席)

2 個室兼用会議室

3 最大80名を収容可能なイベントスペース
新商品発表等にも利用可

4 来訪者会議室(6~8名用)

5 皇居を一望できるリフレッシュスペース

6 メンター席 (FINOVATORS)

金融を革新する ビジネス・エコシステム形成を目的とした 有志個人集団「FINOVATORS」

株式会社マネーフォワード 取締役 兼 Fintech 研究所長 **瀧 俊雄** 氏



「FINO LAB」では、フィンテック分野スタートアップの支援のため、リソースの提供だけでなく、専門家によるメンタリング、イベントの開催、VCや需要家へのマッチング機会の設定等、新たな産業の創出に向けて様々な活動が予定されている。「FINO LAB」の開設に当たり、メンターとしての役割を担う専門家集団「FINOVATORS」の瀧 俊雄氏にお話を伺った。

「FINOVATORS」の設立の目的と 活動内容についてお聞かせください

2016年1月に設立された一般社団法人金融革新同友会「FINOVATORS」は、「FINO LAB」と密に連携しながら、日本のフィンテックのスタートアップが創業し世界へ向けて成長する環境を実現するために、各領域のプロフェッショナルたち(弁護士、コンサルタント、投資家、フィンテック企業経営者、金融従事者、テクノロジスト等)が支援に参加するプロボノ集団です。メンバーは、本業の利に資するためではなく、フィンテック市場のパイを広げていこうという志を持って、個人の立場で参画します。

主な活動内容は次の2点です。

- 1 規制業種である金融業における起業のハードルを乗り越える支援としての各種メンタリング(金融事業におけるライセンス取得、事業計画立案、資金調達、金融業界の商習慣への対応、海外進出等)を、ラボに定期的に滞在して実施
- 2 国内外でフィンテックと他の様々な産業分野がつながって、金融イノベーションの領域を拡大させていくための、パブリックセクター(政府・官公庁・自治体等)への提言や陳情

「FINO LAB」が、ベンチャーが多いイメージの渋谷・六本木ではなく、大手町に開設されることの優位性は

フィンテック分野の起業家は、金融業に在籍またはその出身者が多く、ハードワークの中で時間を捻出してパートナーと集

まっていますので、どこをベースに活動するかは大きな問題となります。金融業のオフィスが多く、首都圏どこからでもアクセス容易な東京駅に近い大手町に、この「FINO LAB」のようなコワーキングスペースが提供されることは、利便性の面でも大いに助けになるでしょう。ロンドンでフィンテックスタートアップの集積地として有名な「Level 39」も、金融街カナリーワープのビルの中にあります。

厳しい環境のベンチャーだからこそ、リモートワークではなく、対面して協議することが重要です。これから会社を立ち上げようというフェーズの時こそ、かける時間と判断の早さがキーとなり、これにはオンラインではなく、すぐに直接会える場所が必要と考えています。

スタートアップが成功するために、「FINOVATORS」はどのような支援をしていきたいとお考えですか

MVP (Minimum Viable Product) という言葉があります。何を売っていくかも決まっていない段階から、それだけでやっていける一つの大切なもの、MVPを見つけるためのお手伝いをし、判断を早め、会社設立をサポートする手助けをしていきたいと思っています。

そして、自分自身が4年前にマネーフォワード社の創業に参画した時、この「FINOVATORS」のような組織があったら質問したいと思ったであろうことに答えられる、そのような存在でありたいと考えています。

〈取材 2016年1月〉

■ 日本初のフィンテックベンチャー向けシエ

従来の生体認証のあり方を変える技術



株式会社Liquid
代表取締役 久田 康弘氏



今までにない生体認証の実用化

当社は、未来の認証ソリューションを生み出す会社です。認証の形を変えることで、新しい消費行動を生み出すことを事業理念にしています。具体的には、生体情報にフォーカスした画像解析技術と、機械学習を利用したビッグデータ解析技術により、高速処理を可能にした認証アルゴリズムを独自に開発し、世界で初めて、カードやIDを不要とする指紋による生体認証のみでの本人認証・決済サービスの商用化に成功しました。今までの生体認証を活用した本人確認の問題点であった認証スピードの迅速化を研究し、大幅に照合時間を短縮することに成功し、一般普及できる生体認証検索エンジン「Liquid」を生み出し、それらを中心に事業を運営しています（大規模実証実験実施済、特許申請済）。

さらに、画像解析技術を使ったデジタルサイネージの利用による業務支援ソリューションやマーケティング支援サービスを開発、提供しています。

丸の内・大手町エリアと「FINO LAB」へ期待すること

事業拠点にこの丸の内・大手町エリアを選んだ理由の一つは、当社の取引先が多数集積していることです。当社のサービスは、社会インフラ（施設や設備といったいわゆるインフラ、金融インフラ、広報ネットワーク等）がユーザーと接する場所で提供されるサービスです。そのため、主な取引先はこれらのインフラを担っている企業、つまり大手企業が中心で、時間やコストの面でも、歩いて直接コミュニケーションを取れるアクセスの良さが重要になります。

もう一つの理由は、「テクノロジー企業が集まって切磋琢磨していく研究所を作りたい」という「FINO LAB」の設立コンセプトに共感したことです。一昔前の渋谷はITベンチャーが多数集積し情報交換の場として賑わっていましたが、メディアとしてどのようにマーケティングするかといった情報が中心で、基幹技術そのものについての情報交換は少なかったように思います。一つ大きな変革があると、それに追随、隆盛、やがて衰退という一過性のサイクルの繰り返しになってしまうのには、そのような背景もあるのでしょう。

この「FINO LAB」は、フィンテック分野のスタートアップに特化した拠点としてファシリティが提供されるだけでなく、専門家や有識者が事業を支援する環境も用意されていく予定で、そういった環境に魅力を感じました。

丸の内・大手町エリアには、企業を成長・発展させるビジネスチャンスが多くありながら、IT企業の集積が少ないのは、ポテンシャルは持っているはずなのに1人当たりの売上高が低いという業界の現状があるからだと思います。この「FINO LAB」を足掛かりに、エリア内で事業を拡張していけるよう、開発に取り組んでいきたいと考えています。

〈取材 2016年1月〉

アオフィス「FINO LAB」入居企業に訊く

資金移動のAPIプラットフォームを開発



基礎技術から自社開発

当社の主な事業目的は、従来は金融機関の業務であった資金移動のプラットフォームをネットワーク上に構築することです。このサービスを利用すれば、一般企業は自社のシステムに資金決済機能を組み込むことが容易にできるようになります。

各国の法定通貨、仮想通貨、地域通貨の違いを問わず取り扱いができるマルチカレンシー・マルチアセット対応が特徴で、金銭価値の「入金」「個人間送金」「店頭決済」「通貨両替」「オンリーゼーション」「エスクロー」などを行うための各種アプリケーション・プログラミング・インターフェースを提供しています。

従来の資金移動や為替業務は、銀行に対する伝統的な信用を根拠として行われてきたので、ベンチャー企業のサービスは大丈夫か、という疑問は当然出てくると思います。私たちはそれを払拭するために、暗号技術を応用したブロックチェーンの技術を採用しています。構造的に改ざんが困難なデータをネットワーク上に分散して持つことでサービスの堅牢性を保ちながら、取引の正当性を数学的な証明手法をもって監査できる仕組みを構築することで、従来の銀行システムよりも透明性の高い機構を提供しています。

立地と「FINO LAB」の強みを活かす

このような事業を展開するには、金融を取り扱うための免許や資格が必要です。オフィスについても、セキュリティゾーンや間仕切りの設置、入退室の管理、専用回線の引込等、複数の要件を満たす必要がありますが、これらをスタートアップがーから

用意するにはコストが高過ぎます。そういったファシリティ面の充実が、「FINO LAB」に入居するメリットの一つです。

もちろん、オフィスの仕様だけではなく、丸の内・大手町エリアに拠点を置くことによる効果は様々に期待できます。各企業からの信用獲得面、協業する金融機関が多く立地する利便性はもちろん、主要な取引先である地方銀行は「東京銀行協会ビル」へ、また連携する海外の企業からは日本の玄関口である東京駅に近いビルへと、アクセスの分かりやすさもメリットとなります。

丸の内・大手町のブランド力は、今後、業界の人材獲得面でも強みを発揮すると思われるが、エリア内にワーカーのための居住施設が充実していけば、当社の開発メンバーのように、海外とのコミュニケーションが必要でコアタイムが逆転しているような技術者も集まりやすくなるのではないかと考えます。

「FINO LAB」には、金融業法に詳しい弁護士もメンターとして参画します。当社はフィンテック分野でも基盤を開発する立場から、まだ国で取り扱いが定まっていない仮想通貨に関するルールを一緒に作り、社会を変える金融改革の早期実現に向け一助になりたいと思います。

〈取材 2016年1月〉